



総合資料館だより

2011.10.1 No.169

国民文化祭・京都2011 開催記念企画展

「目でみる京都の今昔

—写真でたどる京都の変遷—



新京極（昭和初期）／黒川翠山撮影写真資料985

このたび、京都府の文化芸術の振興にご尽力いただいている写真家8名の皆様のご協力を得て、明治から昭和初期の黒川翠山らによる古写真と同じアングルで京都の今を撮影いただき、景観の変貌を一目瞭然にたどることができる写真展を開催いたします。

併せて、写真家の皆様が「将来に残しておきたい京都の景観」として推奨される景観写真や「京の記憶ライブラリ」でインターネット配信している江戸時代の京都の古地図や絵図の原作品なども展示します。より多くの方々のご来場をお待ちしています。

（会期：10月15日（土）～11月13日（日）於 総合資料館 2階展示室、同会議室）

目次	国民文化祭・京都2011 開催記念企画展「目で見る京都の今昔」	1・8
	文献課の窓から「名所巡りの楽しみ方 —書籍でもデジタルでもお好みで—」	2
	「大規模災害と歴史資料—東日本大震災をうけて—」	4
	最近の収集資料から（平成23年6月～8月）	6
	日誌、友の会事務局から 利用案内	10

名所巡りの楽しみ方 ―書籍でもデジタルでもお好みで―

名所図会の世界を吟遊してみよう

『総合資料館だより』7月号でご紹介した、画像データ閲覧システム「京の記憶ライブラリ」を、インターネットでも公開を開始し、自宅からでも自由に見ることができるようになりました。

「京の記憶ライブラリ」には、京都の古地図や、江戸時代の京都の名所図会など、挿絵や図、写真等の資料を多数収録しています。そのため、視覚的にも楽しむことができます。

たとえば、「江戸時代の京都の名所図会」のカテゴリに収録されている資料には、京都の地誌としては2番目に古い『山城名所記』（別書名『洛陽名所集』、寛文4（1664）年刊）、名所案内と俳諧を記した『堀河之水』（元禄7（1694）年刊）、最も有名な地誌である『都名所図会』の安永9（1780）年版（吉野屋為八刊）および天明6（1786）年版、その続編とされる『拾遺都名所図会』（天明7（1787）年刊）、京都の庭園を紹介した『都林泉名勝図会』（寛政11（1799）年刊）、幕末の元治元（1864）年に刊行された『東山名勝図会』（別書名『再撰花洛名勝図会』）があります。

さて、これらの資料を使用して、名所巡りを楽しむ方法をひとつご紹介します。

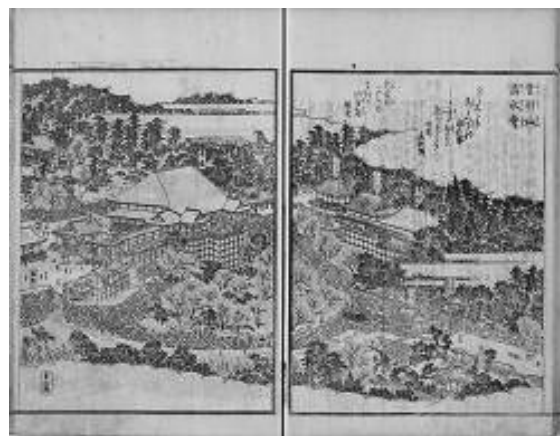
坂井輝久氏による「京近江 名所句巡り」と題したコラムが、4月1日から『京都新聞』の朝刊第1面で連載されています。このコラムでは、江戸時代に刊行された「名所図会」などに記された和歌や俳句、漢詩などが紹介されていますが、先に紹介した『都名所図会』『都林泉名勝図会』『東山名勝図会』などの資料が頻繁に登場しています。しかし、残念ながらこのコラムでは、これらの資料の写真は掲載されておらず、挿絵をみることはできません。

そこで当館では、「京近江 名所句巡り」で取り上げられた資料を閲覧室に展示することにし、

当日を含む3日分を日替わりで並べています。また、当館のホームページにも「今日の一句」のページを設け、「京の記憶ライブラリ」など、当館のデータベースに画像があるものについては、該当ページへのリンクをつけて紹介しています。

たとえば、4月5日の「京近江 名所句巡り」に掲載の一句は、「花に飛ぶ命はなきかこの舞台」です。これは、江戸時代の俳人である関更（らんこう）が、思い切って行動をすることのたとえとして使われる「清水の舞台から飛び降りる」で有名な清水寺を詠んだ句です。この句と清水寺の挿絵は、『東山名勝図会』に掲載されており、「京の記憶ライブラリ」で閲覧することができます。

この挿絵をよく見てみると、清水の舞台には多くの人が描かれています。その中には、舞台の柵の外側に立ち、まさに清水の舞台から飛び降りんとしている人の姿もみられます。原資料では、挿絵の細部まで把握することは難しいですが、「京の記憶ライブラリ」で清水の舞台の箇所を拡大してみると、細部までよく観察することができます。



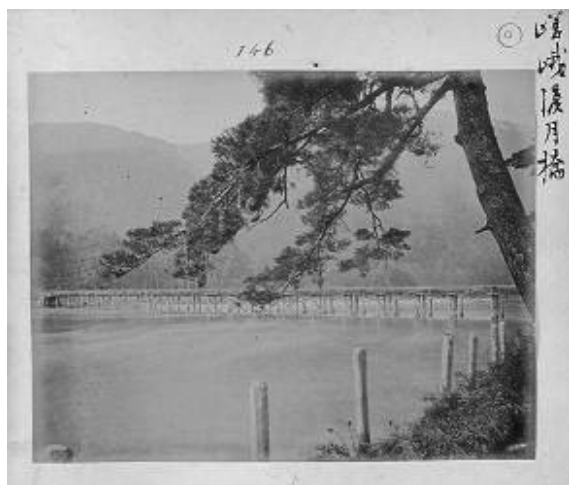
【図1】清水寺（『東山名勝図会』より）

国民文化祭の楽しみ方のひとつに

10月15日（土）から11月13日（日）の間、当館では「国民文化祭・京都2011開催記念企画展『目で見る京都の今昔』」を開催します。

（企画展の詳細については8～9ページをご覧ください。）

京都の有名な観光名所として、嵐山の渡月橋がありますが、明治初期の京都府や奈良県の名所を撮影した写真帳『撮影鑑 二』（「当館所蔵資料データベース「京都北山アーカイブズ」に収録）には、明治14年頃の渡月橋の写真があります。現在の鉄筋コンクリート製の橋とはちがひ、当時は木製の橋だったことがわかります。現在の渡月橋の写真と古写真を並べて、企画展で展示する予定です。

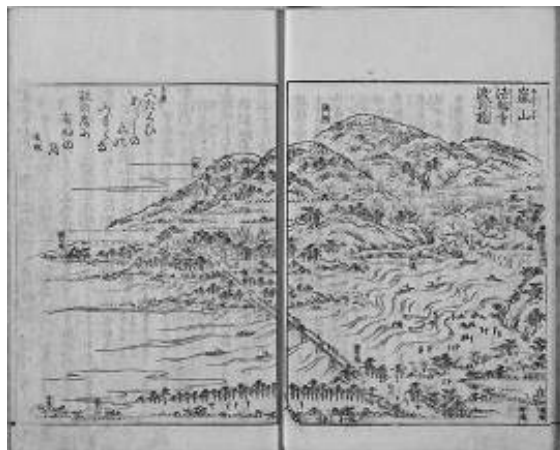


【図2】渡月橋（『撮影鑑 二』より）

また、『都名所図会』にも当時の渡月橋の様子が見事に描かれており、荷物を担いで橋を渡

る人の姿や、桂川（大堰川）を下る舟や筏の姿をみることができます。こちらも企画展で展示します。

このように、江戸時代から現在に至る京都の景観の変遷を楽しむことができるような内容となっています。



【図3】渡月橋（『都名所図会』より）

来館して、現物をながめながら京都の名所を巡るのもよし、インターネットで、いつでもどこでも画像を楽しむのもよし、江戸時代から現在に至る京都の景観を様々なかたちで感じとり、実際に名所旧跡を巡る旅を楽しむのも一興ではないでしょうか。

この秋の国民文化祭の開催期間中（10月29日～11月6日）を中心に、京都府内各地で短歌や俳句、連歌や川柳などの祭典やイベントが開催されます。京都の名所を巡り、一句詠んでみてはいかがでしょうか。

<参考資料>

- ・「京の記憶ライブラリ」
<http://kyoto-shiryokan.jp/kyoto-memory/index.php>
- ・「京都北山アーカイブズ」
<http://www.pref.kyoto.jp/archives/>
- ・「今日の一句」
<http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/ikku-top.html>
- ・「第26回国民文化祭・京都2011」
<http://kokubunsai-kyoto2011.jp/>

大規模災害と歴史資料 – 東日本大震災をうけて –

はじめに

死者・行方不明者が2万人を超え、被災地域も青森県から千葉県までの東日本の太平洋岸を中心に東日本全体に広がる、戦後最大の大規模災害「東日本大震災」が発生してから半年が経過しました。

本稿では特に「大規模災害と歴史資料」と題して歴史資料の保全について考えます

1. 歴史資料はなぜ歴史資料たりえたのか

京都府内には世界に誇りうる歴史資料（美術工芸品・仏像・建築・古典籍・文書・写真など）が非常に高い密度で残されています。十分な指標とは言えませんが、国が指定する国宝・重要文化財のうち、その17パーセントが京都府内に存在します。

また、歴史資料というのはこうした指定文化財や目につく古美術品の類のみを言うものではありません。みなさんのお家や近所の旧家に残されている、戦後に作られた記録の束や何気ない様子が写された写真なども、地域のその時々状況を後世に伝える貴重な歴史資料となりうるのです。

これらの物品やそれに付随する情報のうち、公共財としての価値が認定され、著作権などの問題が解決されて、利用がある程度自由に出来るようになったものが歴史資料と言えます。

では、これらの歴史資料はどのように残されて来たのでしょうか？東寺百合文書の様に寺領運営のために作成された資料が、寺の来歴を語るための資料として意識的に再整理されて残される事例もままあるものの、人為的な廃棄や火災や戦争、自然災害をくぐり抜け、偶然に残ったために歴史資料となった物品も数多くあります。

自然災害という事でいうと、京都府域も記録に残っているだけでも多くの地震や水害を経験しています。また、16世紀末には日本海側にも大規模な津波が押し寄せていることが宣教師の記

録に残されています。

さらに地震自体の被害も大きく記録されています。秀吉の時代に伏見城の天守閣を崩壊させたと伝わる慶長伏見地震が京都に残る記憶では一番印象深いと考えられますが、近代以降でも、たとえば昭和2（1927）年3月7日に発生した丹後震災でも3000名近い死者が発生し、峰山の街は地震によって発生した火災によって壊滅しました。

また最近では平成16（2004）年10月の台風23号による広範囲の浸水被害も記憶に新しいところです。

今、われわれの手許に残されている歴史資料は、これらの災害をくぐり抜け、先人たちが救ってきたものたちなのです。



▲被災した陸前高田市の移動図書館車

2. 東日本大震災と歴史資料

今回の東日本大震災において、石巻文化センターなど多くの博物館・図書館が被害に遭いました。施設は壊滅し、職員で亡くなった方や、館蔵品のすべてが被害を受けた施設も多くあります。これら館蔵資料については、文化庁が呼びかけて結成された東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会（事務局：東京文化財研究所）が地元教育委員会や各学会などと連携して、その救援活動を行っています。

8月末現在で判明している指定文化財の被害

は164件に留まったものの、館蔵にとどまらず、地域の旧家や寺院等にあった未指定の文化財・歴史資料の被害は、津波によるものを中心に非常に大きなものとなっています。

これらの地域の歴史資料の救援は主に「宮城歴史資料保全ネットワーク」「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」「山形文化遺産防災ネットワーク」などが担い、それぞれに地震直後から活動を開始しました。特に、2003年7月の宮城県北部地震をきっかけに東北大学を中心に結成された「宮城歴史資料保全ネットワーク」は、非常に活発に活動し、また情報発信も行っています。

さらに各市町村の公文書の救済についても取り組みが始まっています。国文学研究資料館が釜石市を中心に岩手県の中北部の公文書のレスキューを行い、群馬県立文書館が宮城県女川町の公文書の手当を行い、現在当館が事務局を引き受けている全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）と法政大学などが連携して岩手県陸前高田市の大量の被災公文書のレスキューに取り組んでいます。



▲レスキュー作業の様子

また、自衛隊等によるがれき撤去に際し「位牌、アルバム等、所有者等の個人にとって価値があると認められるものについては、作業の過程において発見され、容易に回収することができる場合は、一律に廃棄せず、別途保管し、所有者等に引き渡す機会を設けることが望ましい」との政府通達が3月25日には出されたことは特に注目されます。公共財たる歴史資料と、個々人の思い出が密接に結びつくこれらの物品を安易に同列に論じることは出来ませんが、この間の地平はつ

ながっているといえます。

実際に私自身も岩手県釜石市などで、アルバムや賞状がまとめられて置かれている光景を目撃しています。また、海水につかった写真洗浄のボランティアや、散乱した思い出の品を被災者の手許にとどける活動なども非常に重要な意味を持っていると考えられます。

こうした活動を通じ、歴史資料の重要性も少しずつ社会に浸透する事が期待されます。

おわりにー対応組織の必要性ー

大規模災害はいつ起こるか予測が難しいため、備えがどうしても後回しになりがちです。しかし、阪神淡路大震災、東日本大震災を16年間に続けて経験した以上、京都においても一層の取り組みが必要になってきました。

すでに京都市消防局を中心に取り組まれている「文化財市民レスキュー」などとも連携しつつ、京都においても、市民・寺社・大学・行政機関がネットワークを作り、いざという場合に歴史資料の保全を行い、それを通じて市民生活の再建に資することができる体制を具体的に構想する段階を迎えています。

【参考】

拙稿2011「地域拠点の形成と意義ーデジタル文化資源の「資源」はどう調達されるのか？」
(NPO知的資源イニシアティブ編『デジタル文化資源の活用』(勉誠出版))

京丹後市編2011『丹後震災救護史料集』(京丹後市)

きょうと危機管理WEB 防災資料室

<http://www.pref.kyoto.jp/kikiweb/data/index.html> (平成23年8月28日確認)

文部科学省「東日本大震災による被害情報について(第155報)」(平成23年8月29日)

(歴史資料課・行政文書担当 福島幸宏)



最近の収集資料から（平成23年6月～8月）



◆図書資料

<京都>

区誌甲坂 久美浜町甲坂区 甲坂区区誌編纂委員会編 甲坂区 2011 225p 図版7p

榎村正直 その長州藩時代 布引敏雄著 文理閣 2011 224p

歩いて観よう京都丹波 京都府南丹広域振興局[編]刊 2011 14p

美の風景（うるわしのふうけい） 天橋立と名所 絵屏風の世界 春季特別展 京都府立丹後郷土資料館編刊 2011 65p

亀岡高女三十年史 京都府立亀岡高等女学校[編]刊 1934 57p

京都三大学 京大・同志社・立命館 東大・早慶への対抗 橘木俊詔著 岩波書店 2011 12,246,4p

錦の百年 錦盛会創立100年記念誌委員会編 錦盛会 2011 44p

電話番号簿 附嵯峨特設電話番号簿 明治38年6月改 京都郵便局[編]刊 1905 141,4p

イエローカードはぼくらの旗印 沢田俊子著 京都新聞出版センター 2011 127p

60年のあゆみ 京都医療生協60年史編集委員会編 京都医療生活協同組合 2011 59p 寄贈

神前の薬草 神前ふるさとを守る会編[刊] 2011 73p 寄贈

宝物総覧 浄土宗大本山くろ谷金戒光明寺[編]刊 2011 515p 寄贈

昔むかし…。 京都府の遺跡をよむ 京都府埋蔵文化財調査研究センター[編]刊 2011 6,151p 寄贈

京大地球物理学研究の百年 財団法人国際高等研究所フェロー研究会集録 竹本修三・廣田勇編 国際高等研究所・竹本修三フェロー研究会 2010 156p 寄贈

<人文>

出版年鑑 2011-1,2 出版年鑑編集部編 出版ニュース社 2011 2冊

雑誌新聞総かたろぐ 2011年版 メディア・リサーチ・センター編刊 2011 2053p

江戸時代初期出版年表 天正19年～明暦4年 岡雅彦[ほか]編 勉誠出版 2011 9,628,37p 図版32p

図書館で使える情報源と情報サービス 木本幸子著 日外アソシエーツ 2011 10,197p

情報・知識資源の組織化 長田秀一著 サンウェイ出版 2011 8,254p

大学所蔵貴重書解題集 復刻 ゆまに書房 2011 414p （書誌書目シリーズ 95）

日本労働年鑑 第81集（2011年版） 法政大学大原社会問題研究所編著 旬報社 2011 475p

法制史研究 法制史學會年報60 法制史学会成文堂（発売） 2011 6,357,99,7p

皇室制度史料 儀制誕生4 宮内庁書陵部編纂 宮内庁 2011 3,365p 寄贈

圖書寮叢刊 九条家本玉葉13 宮内庁書陵部[編]刊 2011 263p 寄贈

迎陽記 第一 [東坊城秀長著] 小川剛生校訂 八木書店 2011 212p （史料纂集 古記録編）

細川家文書 絵図・地図・指図編1 熊本大学文学部附属永青文庫研究センター編 吉川弘文館 2011 13,210,31p （永青文庫叢書）

近現代日本人物史料情報辞典 4 伊藤隆・季武嘉也編 吉川弘文館 2011 6,354,96p

戦後の神社・神道 歴史と課題 神社本庁総合研究所監修 神社新報創刊六十周年記念出版委員会編 神社新報社 2010 10,460p 寄贈

仁明朝史の研究 承和転換期とその周辺 角田文衛監修 古代学協会編 思文閣出版 2011 10,339p 寄贈

四條畷市史 全4巻 四條畷市総務部庶務課・四條畷市教育委員会編 四條畷市 1979~1990 4冊 寄贈

印籠名品集 清水三年坂美術館コレクション 村田理如著 淡交社 2011 159p

日本の図像琳派 ピエ・ブックス 2011 399p (Traditional Patterns in Japanese Design)

岡本太郎 岡本太郎[作] 平凡社 1979 289p

不滅のシンボル 鳳凰と獅子 サントリー美術館編刊 2011 201,15p (開館50周年記念「美を結ぶ。美をひらく。」 2) 寄贈

工芸館名品集 - 人形 東京国立近代美術館編刊 2010 135p 寄贈

裏千家十五代家元鵬雲斎千玄室の茶 茶道資料館編刊 2011 87p 寄贈

<官庁>

日本外交文書 日中戦争 第1~4冊 外務省編 六一書房 2011 4冊

賃金センサス 平成23年版 第1~5巻 厚生労働省統計情報部編 労働法令 2011 5冊

特定サービス産業実態調査報告書 平成21年 経済産業省経済産業政策局調査統計部編 経済産業統計協会 2011 17冊

国民生活時間調査 データブック 2010 NHK放送文化研究所編 NHK出版 2011 635p 寄贈

現代日本の家族変動 第4回全国家庭動向調査 国立社会保障・人口問題研究所 2011

357p 寄贈

京都府知事選挙選挙の記録 平成22年4月11日執行 京都府選挙管理委員会[編]刊[2011] 78p

京都府立淇陽学校一覽表 昭和8年11月 京都府立淇陽学校[編]刊 1933 1枚

農林水産京カプラン 京都府農林水産部農政課[編]刊[2011] 58p

はばたけ未来へ!京(みやこ)プラン 京都市基本計画 平成23(2011)~32(2020)年度京都市総合企画局政策企画室[編]刊 2011 180p 寄贈

京都市の公園 平成23年度版 京都市建設局水と緑環境部[編]刊 [2011] 259p 寄贈

城陽市防災マップ 地震編 水害編 城陽市防災課[編]刊 2011 2枚 寄贈

相楽ふるさと塾活動報告書 平成22年度(第17期) 相楽郡広域事務組合[編]刊 2011 39p 寄贈

舞鶴の環境 環境白書資料集 平成22年度版 舞鶴市市民環境部環境対策室生活環境課[編]刊 2011 190p 寄贈

■文書資料(新しく公開する資料)

蛸薬師町文書 室町通二条下ル蛸薬師町(京都市中京区)は京都の中心地に位置し祇園祭の轅(ながえ)町である。その町の年寄が記録した安政3年(1856)鴨川筋浚(さらえ)の一件、安政3~4年四條橋の新造の一件、文化9年(1812)~天保15年(1844)祇園会神輿(みこし)の祭礼の記録など。13点。

遠下村文書 丹後国竹野郡遠下村(おんげむら)(旧丹後町上宇川 現京丹後市)の庄屋・総代を務めた三宅五兵衛家に残った村関係の文書。延宝7年(1679)の検地帳、寛政9年(1797)の蚕飼の仕法帳、天保9年(1838)の村明細帳、ほかに儉約等を定めた仕法書、証書類、役場への進達書など、近世・近代の遠下村の様子を伺うことができるものが多く含まれる。万治3年(1660)~大正8年(1918)。98点。寄贈。

国民文化祭・京都2011開催記念企画展 「目で見る京都の今昔—写真でたどる京都の変遷—」

- 会期 平成23年10月15日（土）～11月13日（日）午前9時～午後4時30分
（11月3日（木・祝）、11月9日（水）は休館）
- 会場 京都府立総合資料館 2階 会議室・展示室（入場無料）
- 主催 京都府立総合資料館
- 後援 第26回国民文化祭京都府実行委員会
- 協力 第13回京都現代写真作家展実行委員会

今秋、京都府内の各所では第26回国民文化祭が開かれます。それに合わせて、館蔵の写真資料を中心として、京都の景観の過去と現在を対比する企画展「写真でたどる京都の変遷」を開催します。また、資料館では所蔵品のデジタル化による資料保存、利活用を進めていますが、今年度からは新たに「京の記憶ライブラリ」を制作・発信しました。関連展示「古絵図類にみえる京都」では、その原品を中心に展示します。また、京都の名所絵図等を紹介する「洛中洛外デジタル遊覧」を大型画面でご覧いただきます。これらを通して、京都の今昔の景観、風俗の変遷を伝え、考える場としていきたいと考えます。

「写真でたどる京都の変遷」

当館が所蔵する『撮影鑑 二』、旧1号書庫写真資料、黒川翠山撮影写真資料等の古写真の中から府内の名所を選び、これらの地点の現在の姿を、第13回京都現代写真作家展の運営にかかわる8名の写真家の撮影により比較展示します。また、これら8名の方々の「将来に残しておきたい京都の景観」を1人1点ずつ新規撮影したものを展示します。

『撮影鑑 二』は1881（明治14）年に京都の舎密局の原板を利用した古写真です。旧1号書庫写真資料は府庁倉庫内に収蔵されていたもので、1915（大正4）年の『京都府誌』に掲載された写真などを含みます。黒川翠山撮影写真資料は、写真家黒川翠山（1882～1944）が遺した作品群で、京都の社寺・風俗などの写真も数多く含まれます。これらの写真の中から、名勝・社寺・町並・建築などの名所32ヶ所を選び、写真パネルを展示します。



黒川翠山撮影写真資料「塔ノ島」



黒川翠山撮影写真資料「新京極」

二条城、平安神宮大鳥居のように一見すると昔も今もあまり変わらないところがある一方、京都駅、四条大橋のように大きく変貌したところもあります。このような景観の相違だけでなく、そこに写し込まれた人々の容貌・服装などの変化にも注意して、写真を一点一点対比すると、いろいろな発見ができることでしょう。

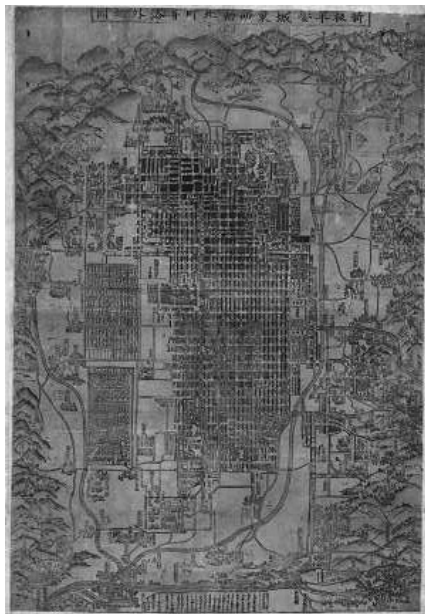
鶏卵写真、湿板、乾板など、写真史に関する資料も展示します。

関連展示「古絵図類にみえる京都」

今年度から公開している「知デジ京都」の中の「京の記憶ライブラリ」に収めた古絵図類の原作品を見ていただきます。江戸期に出版・模写された京都の古地図、町並や川筋・社寺を描いた古絵図、東寺百合文書や京都府行政文書の中にある用水や鉄道の図、昭和初期の市内の明細図などを展示します。

関連展示「洛中洛外デジタル遊覧」

江戸時代における京都の観光スポットや名所旧跡の挿絵と、それに対応する明治～昭和初期の古写真、現在の写真を表示する「洛中洛外デジタル遊覧」を大型ディスプレイで画像展示し、江戸から現在に至る京都の景観の変遷等を楽しみながら学んでいただきます。今年度、資料館で実施したインターンシップの成果も紹介します。



新板平安城東西南北町并洛外之図



手洗井戸古図(手洗水町文書)

トークセッション・講演会

◇トークセッション「写真が語る京都—歴史地理学者の眼と写真家の眼」

日時 10月21日(金) 午後2時～午後4時

会場 総合資料館 4階講堂

金田章裕氏(人間文化研究機構長)による講演「歴史地理学者は写真資料をどう使うか」

講演後、井口和起(当館顧問)の進行により、金田章裕氏、写真家の皆様とのトークセッション

◇講演会

「GLOBALBASEプロジェクトとは—江戸期の地図学者 森幸安の地図から21世紀の地図へ—」

森洋久氏(国際日本文化研究センター准教授)による講演

日時 11月2日(水) 午後2時～午後4時

会場 総合資料館 4階講堂

※トークセッション、講演会とも事前申し込み不要(先着200名)

列品解説

10月20日(木)及び10月27日(木) いずれも午後2時から

寺子屋講座にご参加 ありがとうございました

8月18日(木)に寺子屋講座「飲んで!学んで!宇治茶」を開催しましたところ、定員いっぱいのご参加をいただきました。当日は、(社)京都府茶業会議所会員の皆様を講師にお招きし、お話をいただいた後、「茶香服(ちゃかぶき)」という、お茶を飲んで種類を当てるゲームをお楽しみいただきました。

茶香服では全問正解者も現れて、講師の方も驚いておられました。

今後とも、参加者の皆さんに喜んでいただけるような講座を企画したいと考えております。



友の会事務局から

○「見学会」参加者募集中

本年度は、ミホミュージアム、滋賀県立工芸の森を訪れ、企画展等を見学します。

- ・実施日 平成23年11月15日(火)
- ・定員 120名
- ・応募締切 10月14日(金)
- ・応募方法 往復ハガキで事務局まで

古文書相談のご案内

○古文書の内容や解説についての相談

郵送による事前申込。申込方法の詳細については、次へお問い合わせください。

問合せ先：当館歴史資料課 TEL 075-723-4834

日誌(平成23年6月～8月)

- 8.18(木) 寺子屋講座
「飲んで!学んで!宇治茶」
- 8.24(水)、25(木)、26(金)
古文書入門教室

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始(12月28日～1月4日)

[10月～12月の休館日]

10月10日(月・祝)、12日(水)

11月3日(木・祝)、9日(水)、
23日(水・祝)

12月14日(水)、23日(金・祝)、
28日～31日(年末)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市営地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④、⑧・北山駅下車
京都バス④⑤、④⑥・前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991) TEL. 075-723-4831 FAX. 075-791-9466

○本誌に対するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

再生紙を使用しています。



国内最大の文化祭典
国民文化祭・京都2011
平成23年10月29日(土)～11月6日(日)
京都府内全市町村で約70のフェスティバルを開催

PR隊長 まゆまる

詳しくはWebで

京都2011

検索

癒しのこころ
今こそ
文化の
底力